



福入りだるま猫 日本画会員 谷地元麗子

DOTEN NEWS



No.153 May/2024
URL <http://www.doten.jp>

第14回道展U21講評「創造するエネルギー」

油彩会員 審査委員長 八重樫眞一



今年の元旦に大震災が能登半島を襲いました。人間が抗うことのできない自然の猛威に空しさを覚えます。しかし、道展U21の会場に展示された作品群は、そんな無力感を一瞬忘れさせるエネルギーを発していました。

第14回道展U21に出品されたみなさん、入選おめでとうございます。応募点数は736点。平面684点、立体52点。その中から最高賞の道展U21大賞と準U21大賞のほか、各スポンサー賞の27点、優秀賞46点、奨励賞180点を選出しました。審査に当たって感じたことは、作品のレベルが一層高くなったことです。特にアイデアをより鮮明に見せるための技法の工夫や造形性です。一方、造形に夢中になり、大きさはみ出してしまった作品が見られました。どうか出品規定というルールの中での制作を心がけ、今後に生かしてください。

最高賞の第14回道展U21大賞を獲得したのは竹内優希さんの油彩作品「雪華」です。シンメトリーを生かしたシンプルで大胆な構成。背景や人肌、雪の結晶、色調やイメージのコントラストが効果的です。視点の誘導により、画面の広がりを感じさせます。強く、明確な創意をもって制作していることが伝わります。油彩を生かした確かな技法に裏付けされた秀作となりました。

準大賞には、鈴木涼果さんが制作された立体、「ここにある」が選ばれました。組み木の技法を生かした繰り返される直線のリズムが力強さを感じさせます。空間の中央に緩やかな曲線で切り取られた透明なガラスが置かれることで、異質な素材や、透過する光などのコントラストを創り出し、和やかな雰囲気や醸し出しています。緻密な仕事を根気よく重ねた造形美が魅力の秀作です。

道展U21は、芸術の若い才能の発掘を目ざし、2008年に始まりました。

今を共に生きる若い才能を見たい。集う場を作りたいと思ったのです。私たちの呼びかけに应运えてくれた全道各地の皆さんは1人ひとりが立派な灯です。その灯が今年も700を超えたのです。

大賞のトロフィー（制作／工芸 望月建会員）、「創」は種の入った豆の鞘の形です。皆さんには多くの可能性を秘めた種があることを表現しています。準大賞トロフィー（制作／彫刻 小石巧会員）、「虹の旗」は皆さんへの応援旗です。創造する力を大切にという思いが込められています。展示（会場デザイン／油彩 千代明会員）は飾られて誇らしいと思える会場にしたいと願い、精一杯の工夫を凝らしたものです。審査を通して創造するエネルギーの大切さを改めて感じました。素晴らしい表現技術とイメージ豊かな皆さんの創造力とエネルギーを、これからも自身の宝物としてぜひ持ち続けて下さい。そして、いつか秋の道展にも出品してくださいね。再会できる日を願っています。





U21大賞
札幌大谷高等学校
竹内 優希

今までにこんなに大きな賞を頂いたことがなくとても驚いています。大賞の電話を頂いた時に信じられず、作

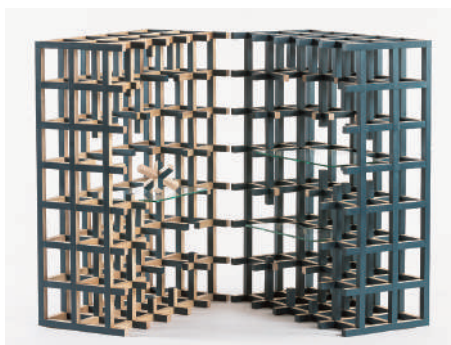
品が飾られている会場に行くまで疑心暗鬼になっていましたが、会場の真ん中に自分の絵が飾られているのを見てやっと実感しました。「雪華」はこれまでの作品の中で1番魂を込めて描きあげた作品で、1番大好きな作品になりました。その作品が大賞を取ったということが自分の中でとても大きい経験になったと思います。この絵を描き上げるまでに応援してくれた家族や友人や先生方には感謝してもしきれないです。次に描く作品ではこの経験を生かして、これ以上に自分の世界に溢れた作品を作りたいと思っています。



第14回U21 大賞

雪華

札幌大谷高等学校
竹内 優希



第14回U21 準大賞

ここに

北海道芸術デザイン専門学校
鈴木 涼果

第97回道展 会友賞・新会友 受賞者の

ことば

●会友賞 油彩 津田光太郎

1枚、或いは1つの塊に、作家があらん限りのエネルギーを注ぎ込んで生み出す“作品”が、所狭しと並ぶ道展の会場は、来るたびに心揺さぶられます。自身もまた、この展覧会を構成する一端として、今後も尽力して参ります。

●会友賞 油彩 本多 理範

毎年壁に掛けられた作品群を観ていると背中を押される気分になります。道展作家たちも高齢になり、中には鬼籍に入った人も居ます。時間の経過は早いものです。道展100回展まであとわずか。微力ではありますが何かお役に立てればと思っています。

●会友賞 油彩 佐藤 宏茂

道展にチャレンジして3回落選し4回目で初入選するまでの試行錯誤。それは私を作家として、さらに美術教師として大きく成長させてくれました。道展へ感謝！そして会友になってから8年間の逡巡、あがき。それを無駄にしたくないです。

●会友賞 油彩 伊藤貴美子

必然と偶然の真ん中に横たわる「偶有性」と言う言葉に出会った時、自分が描いている絵を言葉で表すとしたらこれだ！と感じました。そこから偶有性シリーズが始まりました。今回は寒色を基調に刻々と変化する自然界の営みをマチエールにこだわり描きました。

●会友賞 水彩 工藤 幸俊

退職後に始めた制作活動も今年で10年目を迎えます。ふと立ち寄った水彩画展に触れたのが始まりでした。主に近郊の風景をモチーフに描き、見慣れた所にも時刻や天気、季節によってその時々感動を形にしていかに描くか…長い道のりが続きそうです。

●会友賞 版画 平野 明美

人間にドラマが有るように、動物にもそれぞれのドラマが有って、心を動かされた瞬間や想像を巡らせて描いて来ました。今後もより一層精進し、好きな動物の時めく瞬間を描いて行けたらと思います。

●会友賞 版画 佐々木裕二

私の書斎兼画室は子ども部屋の居抜き。小中高と娘を支えた学習机は今、私を支えている。版木をのせるとはみ出すし壁にぶつかるしで、騙し騙し、いや騙され騙され使っている。勝手の悪い環境だが、せめて感性は子どものように初々しくありたいと思っている。

●会友賞 彫刻 石垣 廣

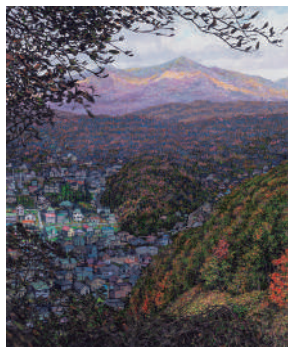
モデルを使い、数名の仲間と共に、借りたアトリエで具象人物を作ってきました。塑像の基礎を教えてくれた先生と一緒に制作してきた先輩が亡くなり、アトリエも閉鎖。独りぼっちになりました。今後どのように制作を続けたらいいのか、大きな課題を抱えています。



会友賞 津田光太郎
冒頭のシーン



会友賞 本多 理範
デンデントロリコ



会友賞 佐藤 宏茂
2023 秋



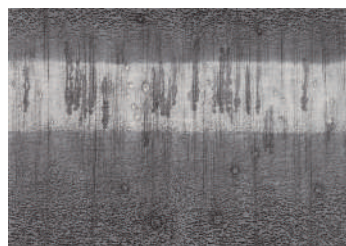
会友賞 伊藤貴美子
荒野をいく II Go through the wilderness.



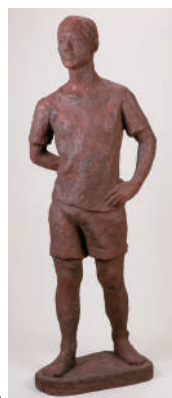
会友賞 平野 明美
今、この瞬間を大切に



会友賞 工藤 幸俊
秋映



会友賞 佐々木裕二
8月の夜



会友賞 石垣 廣
岩手の風



会友賞 金子 道雄
「銀河」氷華結晶壺



会友賞 澤田 正子
翠煙

●会友賞 工芸 金子 道雄

私は亜鉛結晶釉を15年程やっております。亜鉛結晶釉は温度が難しく1250℃前後の温度で焼成され、徐冷されていく課程で、結晶化します。今回の「銀河」氷華結晶壺は黒から白へのグラデーションが上手いかわなくて苦労いたしました、良く出来たと思います。

●会友賞 工芸 澤田 正子

陶芸を始めて23年になりました。土を捏ねると、小さい時に水たまりで長靴を履いて泥遊びしている楽しい気分を思い出します。常に模索しながら作っています。挑戦と失敗、後は神頼みです。出たところ勝負で、綱渡りです。こんなに夢中になれることに出会えて幸せです。

●新会友 油彩 河口真由美

中国では辰がワニだったという説を聞き、これまでなぜ架空の生き物が十二支の中にいるのか、龍と虎がどうして出会うのか謎だったのがストーンと腑に落ちました。自分の干支が3周目になることを3つのハードルを飛び越えるピクトグラムで表現しています。

●新会友 油彩 長内 紀子

近年、心象風景として拙作の出品を重ねています。改めて調べると「心の中に思い描いたり、浮かんだり、刻み込まれた風景」とあります。何を思い、何を胸に刻むのか…生涯、自分に語りかけ真摯に制作に向き合って参りたいと思いを新たに致しております。

●新会友 油彩 大石 春夫

農業経営を息子に移譲した年に、初入選。息子が農地を各段に広げ大型コンバインを導入した年に会友推挙。息子の作るお米やメロンは益々美味くなる。張り合うつもりは無いけど息子に嫉妬してしまう。私の絵は一体どこへ、どこまで行くのだろう？

●新会友 油彩 鈴木 秋弘

風景や人物などの描写は最初にイメージしたものを大切にしています。何度も壁にあたりながら作品づくりに着手していきますが、最後にイメージ通りに描写できたときは何とも言えない達成感を味わうことができます。そこが描写の面白さと思っています。

●新会友 水彩 齋藤 誠

第二の人生、趣味で始めた絵画、自然美を描いてきましたが、この度の推挙は光栄に思い恐縮する一方、会運営の「老害」にならないかと心配です。世代を超えて多才な表現者たちが集う場で、自身の技量向上と道展の発展のため微力ながらも役に立てればと思います。

●新会友 水彩 井本ますえ

退職して60歳の時でした、5年位で道展に入選。そこからがうまく行かず何年も落選、お友達先生方の導きで一昨年佳作賞、絵を始めて～30年近く、年齢も最高齢でしょう。88歳堂々と胸を張ってたのしみたい。作品は朽ちた木で年齢を表現したい。

●新会友 工芸 田中 栄子

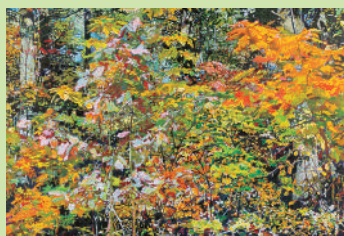
灰汁発酵建てによる藍染めを始め20年以上になります。野ぶどうを題材に出品して来ましたが、これからは、庭の草花木から活力を頂き、私もその自然の中で生かされていることを意識して、藍の重ね染めに挑戦して行きたいと思っています。



新会友 河口真由美
斬新奇抜参周目



新会友 長内 紀子
LOVE (地中も)



新会友 大石 春夫
晩秋2



新会友 鈴木 秋弘
残像—光と影—



新会友 斎藤 誠
平岡の路



新会友 井本ますえ
樹霊



新会友 照井 道子
縹・Lattice



新会友 田中 栄子
野ぶどうの輝きⅢ



新会友 田村 記代
Ever Green (エヴァグリーン)

●新会友

工芸 照井 道子

化学薬品を使わず微生物が発酵する事で発色する天然灰汁発酵建てという方法の藍染めを用い、模様は50種類を超える絞りの技法をアレンジし平面の布を立体的に仕上げる事をテーマにしています。微生物と言う生き物の扱いの難しさが藍染めの面白さでもあります。

●新会友

工芸 田村 記代

永遠のテーマは「作品のデザインと釉薬のバランス」そして「凜としていて動きがあるもの」です。ここ数年は憧れの黒系釉薬と藍色系釉薬に挑戦しておりますが、奥の深さに迷走中です。土のある日々の暮らしの中で新しい発見や気づきができれば幸いです。

一道展からのお知らせ

【『第98回道展』の搬入日と会期について】

○会員・会友搬入日：2024年9月28日(土)

○公募搬入日：2024年10月10日(木)

○会期：2024年10月16日(水)～11月3日(日)

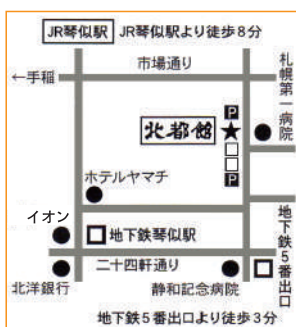
絵好きの集う店

カフェ 北都館 ギャラリー

札幌市西区琴似1条3丁目1-14 第一病院向い
TEL 011-643-5051

営業時間 水～日 AM 10:00～PM 7:00
火曜定休日 月 AM 10:00～PM 5:00

メールアドレス hokutokan@sa3.gyao.ne.jp
http://hokutokan.jimdo.com



その名を彷彿とさせる、師匠・高見山譲りのオレンジ色のまわしが印象深い元横綱・曙。「曙色」は東雲色、暁色など夜明けの空の色で一括りにされがちだが、本来の言葉の意味は時間帯の変化で区別され、夜半から空が明るくなる前「暁」→夜明けの空が東方から徐々に明るんでゆく頃「東雲」→夜がほのぼのと明けはじめる頃「曙」と順序づけられる。

M50% Y50%

春はあけぼの。

http://nakanishi-shuppan.co.jp



NAKANISHI
PUBLISHING
CO.,LTD.

since 1988

道展ニュース

No. 153 [2024年5月10日発行]

発行 ■ 北海道美術協会
編集 ■ 道展広報部
URL ■ http://www.doten.jp
デザイン ■ 笠井真紀子(中西印刷株式会社)
印刷 ■ 中西印刷株式会社

編集
後記

今年は年明けから能登での震災に始まり羽田の飛行機事故など不安な思いで新しい年を迎えた方も多かったかと思います。

そんな年こそ美術作品で、人々を癒やし、

鼓舞していくことが必要ではないでしょうか。

また、道展も100周年に向けていよいよカウントダウンです。

(R. Y.)